

Bonjour à tous

受講生のみなさま、こんにちは！通信事務局です。
今年も残り一ヶ月を切りました。新型コロナウイルスの影響で、
通常の通信講座の業務が行えず、受講生の皆様には大変ご迷惑を
おかけしました。皆様のご協力に感謝いたします。

来年2021年は、牛年(année du bœuf)です！皆様にとって幸多
き一年となりますよう、職員一同、心よりお祈り申し上げます。
どうぞ、楽しい年末年始をお過ごしください。

Nous vous souhaitons un joyeux Noël et une bonne année !



■ 秋学期の質問サポートについて

2020年秋学期の質問サポートの受付最終締切日は、2021年1月15日(金)です。

FAX・手紙でも受付けておりますが、メールで質問された場合が一番早く解答を返却できます。メールの件名には、「2020A, コースコード」をご記入いただき、質問サポート専用のメールまで送信ください。

受講中の課題に関する質問以外の事務的な質問（例えば、添削された文字が読めない、誤字脱字、課題提出日遅延、コース選択の相談、オンライン予約方法、コース料金など）は、tsushin@institutfrancais.jp のメールまでお問合せください。質問サポートの用紙に、事務的な内容の質問を書かれた場合は、お返事にお時間がかかってしまいます。お名前、受講生コード、コースコードに加え、2020年秋学期（2020A）の記載を忘れずをお願いいたします！

課題に関する質問は↓

soutien@institutfrancais.jp

事務的な質問は↓

tsushin@institutfrancais.jp

■ 年末年始のスケジュール

2020年12月24日(木)～2021年1月5日(火)：アンスティチュ・フランセ東京・通信事務局閉館

2021年1月8日(金)：通信コース冬学期スタート

2021年1月12日(火)：冬学期第1回目答案締切日

2021年1月15日(金)：2020年秋学期の質問サポート受付最終締切日



開講期間：2021年1月8日（金）～ 3月26日（金）

お申込み受付中！

インターネットからのお申込みは「通信ブティック」をご利用ください！

★2021年冬学期に新講座はありません。



tsushinboutique.com

■ フランス語で新年のご挨拶

フランス語でクリスマスカード(Carte de Noël)や新年の年賀状(Carte de vœux)を書いてみませんか？
フランス語書籍専門店の欧明社では、書籍以外にも、クリスマスカードやカレンダー、フランス式の手帳などを取り扱っています。どうぞご利用ください！ → <http://www.omeisha.com/>

Noël approche, c'est la saison des cadeaux ! **Cadeau**, un mot tout simple, mais à l'histoire étonnamment complexe...

L'emploi du mot *cadeau* dans son sens actuel n'est attesté que depuis 1669. Avant cela, cet emploi était assuré par les mots **don** et **présent**. Ces deux mots sont encore utilisés, mais ils se sont spécialisés : *faire un don* ou *faire don de* s'utilisent dans des domaines plus abstraits (financier, légal, moral), et *présent* appartient, à la différence de l'anglais, au registre soutenu ou littéraire.

Avant cela, le mot *cadeau* signifiait une **initiale ornée**, comme celles qui débute une partie d'un livre. Ce changement de sens s'expliquerait par le fait qu'on écrive sur l'objet offert les initiales de la personne à qui il est adressé.

Le mot *cadeau* est un emprunt médiéval au provençal **capdel**, issu du latin *capitellum*, diminutif de **caput**, « tête ». Essayons de comprendre l'évolution de sens de « tête » à « initiale ».

Une première possibilité est que ces lettrines sont généralement **illustrées** d'un **personnage**, et donc d'une tête. L'autre hypothèse est que la lettre est placée au **début**, c'est-à-dire *en tête* du texte qu'il précède. Cette explication est à rapprocher de l'origine de l'emploi du mot **capitale** pour signifier « majuscule » (*écrire en lettres capitales*), qui vient du latin *capitalis*, adjectif relatif au mot *caput*, « tête » : la lettre capitale, c'est celle qui est au début du nom, de la phrase, etc.

Notons également le mot **chapitre**, issu du latin *capitulum*, variante de *capitellum*, signifiant initialement « titre placé **en tête** d'une partie d'un texte ».

Vous remarquez que le latin **caput** a donné en français des formes en **cha-** et d'autres en **ca-**. *Ca-* est la forme propre aux emprunts directs au latin (*capitale*) ou au provençal (*capdel*), mais aussi à d'autres dialectes du Nord, comme le mot **capuche** (partie d'un vêtement protégeant la tête). Les formes en *cha-* quant à elles sont propres aux dialectes de la partie centrale du Nord de la France (Champagne, région parisienne, Ouest). Ce simple exemple montre à quel point le français est un melting pot de langues, qui toutes ont fait *cadeau* au français d'une partie de leur vocabulaire !

Christmasが近づいて、cadeau (贈り物) の季節になりました。シンプルな言葉ですが、成り立ちは驚くほど複雑です...

現在の意味で「cadeau」という語の使用が確認されたのは、1669年以降のことにすぎません。それ以前は、「don」や「présent」がこの用法をまかっていた。この二語は現在でも用いられていますが、用法は専門化されています。「faire un don」(贈り物をする)や「faire don de」(～を贈る)といった表現は、抽象的な分野(金融、法律、道徳)で用いられますし、「présent」は英語とは異なって、

改まった、あるいは文語的な語調をもっています。

それ以前は「cadeau」という言葉は、本の一部分の開始を示す「装飾頭文字」を意味していました。このような意味の変化は、贈られたものに、それを差し出された人のイニシャルを書くことから説明できるかもしれません。

「cadeau」は、プロヴァンス語「capdel」からの中世の借用語です。「capdel」は「caput」(頭)の指小辞であるラテン語の「capitellum」

に由来します。では「頭」から「頭文字」に至った意味の変化を探ってみましょう。

ひとつ目の可能性は、装飾頭文字は多くの場合「人物」、つまり人の頭によって図案化されるということです。もうひとつの仮説は、装飾頭文字は「始め」、つまり本文に先行する「文頭」に置かれるというものです。後者の説明は、「大文字」を意味するときの「capitale」(例：「écrire en lettres capitales」大文字で書く)という語の用法の成り立ちに近いものがあります。この語は、「caput」(頭)と関係のある形容詞、ラテン語の「capitalis」から来ています。ですから大文字は、名前や文章の始めにくるのです。

また「chapitre」という語(「capitellum」の変異体であるラテン語の「capitulum」に由来)も、初めは「本文の一部分の頭に置かれた表題」を意味していたということも、指摘しておきましょう。

ラテン語の「caput」がフランス語になると、「cha-」と「ca-」というふたつの形をもたらしたことに気づいた人もいるでしょう。「ca-」は、ラテン語あるいはプロヴァンス語からの直接の借用(*capitale*、*capdel*)、または「capuche」(頭巾)のように北部の方言からの借用語に特有の形です。かたや「cha-」は、北フランス中央部(シャンパーニュ、パリ地方、西部フランス)の方言に固有の形です。このようなごく簡単な例だけでも、フランス語がいかにかの語のるつぼとなっているかがわかります。フランス語は、あらゆる言語から語彙の「贈り物」を受けているのです！

